# とある転生の不死能力

黒龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある転生の不死能力

【Ｎコード】
Ｎ５３４１ＢＡ

【作者名】
黒龍

【あらすじ】
人は・・・・・・・無力だ、
・・・・・・・・・・・・・僕はホームレスだ、ゴミを漁り、盗みをし、日々を無力に過ごしてきた、ある日、僕は死ぬことを決意したそして死ぬと、真っ白な空間にいた、そして・・・・・・不死になった

## 終わりと始まり（前書き）

やっちまったｏｒｚ
まだ、いろいろあるのに・・・
あ、タイトルの読み方は『とある転生（てんせい）の不死能力（インモータリティ）』です

**終わりと始まり**

人は・・・無力だ

空を見上げると雲ひとつない青空、死ぬには絶好の天気だ

「君！馬鹿なことは止めてこっちに来なさい！」

あれ？誰もいないところを選んだのにいつの間にか女の人と警察官がいた

「あ、来ないでください、巻き込んだら、困るんで・・・」

警察官の動きが止まる

「・・・あ、それでいいです、すぐ済みますんで」

すると、女の人が恐る恐る口を開く

「なんで・・・死のうとしているの・・・？皆に・・・見せるため？」

くすっ、と僕は笑った

「それだったら、こんな人気のないところで死のうとはしないでしょう・・・ただ、死ぬだけですよ」

僕は手すりに座る

「お、おい！」

「・・・世界には色々な奴がいる、裕福な奴、貧しい奴、力のある奴、力のない奴、他者を蹴落とす奴・・・僕みたいに蹴落とされた奴」

そこまで話したとき、僕の頬を流れるものがあった

「ああ、もしかしたら、容疑を掛けられるかもしれないから、これを置いとくね、遺書とボイスレコーダー、今までの会話を録音しているから容疑は掛けられないはずだよ、じゃあ、最後に人と話せて良かったよ」

僕は遺書と母親の形見のボイスレコーダーを地面に置き、

身体を後ろに倒した

「ま、待っ・・・・！」

「バイバイ・・・・」

しばらく続いた浮遊感の後、僕の意識は消え去った

しばらくすると、背中に感じる固い感触

「・・・・ん？」

僕は目を開ける、目に写るのは白、それと黒い線

「・・・ここは・・・・天国？・・・・いや、自殺だから地獄かな？」

そう言って身体を起こす、すると・・・

「・・・・・・（うるうる）」

女の人がハンカチを持って涙を流していた

「誰？・・・・」

僕は言う、よく見るとさっきの女の人だった

「悲じいでず～、ごんな、ごんな高校二年生がいるんでずね～（号泣）」

五分後

「・・・ごほんっ、失礼しました」

目を赤くした、女の人が目を擦りながら話す

「失礼ながらあなたの記憶を見させていただきました・・・あまりにも、不遇なので私の独断で転生させてあげます！」

「いえ、いいです」

「・・・え？」

女の人の目が点になる

「生きていても、仕方ないし、それなら、無の空間にいたほうがいいです」

僕はそう言った、すると、女の人も言う

「どうしても？」

「どうしても」

すると、女の人は顔を真っ赤にさせて叫んだ

「うるさいうるさいうるさ――い！もう決めたの！あなたは絶対に転生させます！これは神様の決定！」

ビシッっと、僕に指を差す

「それにもう自殺しないように不死能力を付けます！」

彼女がそう言うと光が飛び、僕の身体に入った

「これであなたは絶対に死にません！」

不死になっちゃった、どうしよう・・・

「それになんですかそのボサボサの髪に汚い格好は！綺麗にしなさい！」

・・・仕方ないでしょう、家もないし、お金も無いから、身なりを整えることも出来なかったんですから

彼女が手を振ると、僕の身体が綺麗になっていった

ゴミを漁って浅黒くなった肌が白く綺麗になり

黒く汚れ、ボロボロだった服が小綺麗な服になった

髪も少し長めに切り揃えられ、つやつやになった

「うわ・・・かわいい！」

いきなり、彼女は綺麗になった僕を見るなり、抱きついてきた

「うわっ！・・・いきなり、なんですか？」

「これが男の娘と言うやつなのかしら、とてもかわいいわ（すりすり）」

そのセリフを僕の頬に顔を擦り付けてきながら言っていた

「おっと、本題を忘れるところだったわ」

・・・そのまま、忘れてくれれば良かったのに・・・

「あなたはこれから『とある魔術の禁書目録』の世界に転生します、あなたの記憶の中にあったので使用させていただきました」

昔読んだことのある本だ、多少不幸でもこうなりたいと何度も思ったぐらいだ

「それでは・・・あ、名前を聞いてませんでしたね、私は神野雪美です、あなたは？」

「僕の名前は・・・・」

久しぶりに自分の名前をいった気がする

「黒野・・・黒野飛鳥」

「黒野飛鳥・・・いい名前ですね」

神野さんが笑顔になる
その表情に僕は顔を真っ赤にする

「それでは行きますよ」

神野さんがそう言うと、僕の足元に幾何学的模様が浮かび、僕の視界を白く染めた

## 終わりと始まり（後書き）

作「やっちまったよ」

黒「大丈夫ですか？」

作「やさしい・・・同じあいつとは大違いだ」

神「あいつ？」

作「気にするな、同じ黒と言うだけだ」

黒「そうなんですか？」

作「次は一話の少し前ぐらいかな？」

神「お楽しみに～」

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5341ba/

---

とある転生の不死能力

2012年1月14日20時58分発行